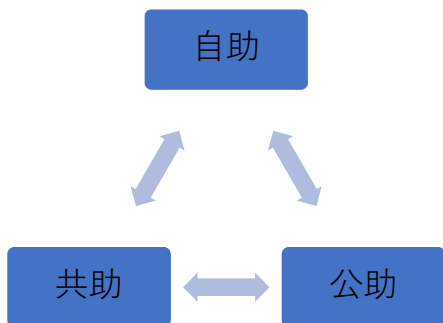


☆ ご存じですか？

災害による被害を少なくするためには、日頃から災害が発生したときに備え、いろいろな準備をしておくことが大切です。

災害に対する「備え」についての考え方に「自助」「共助」「公助」というものがあります。

- 「自助」自分自身や家族の安全を守ること
- 「共助」ご近所や学校などの周囲の人たちが協力して助け合うこと
- 「公助」行政機関や自衛隊、消防、警察による救助・援助のこと



覚えていますか？あの日のことを・・・

今年の3月11日で11年となる東日本大震災は東北地方をはじめ日本列島に非常に大きな爪痕を残し、数々の悲惨な映像や被災した経験から記憶に新しい方も多いと思います。

そんな中、東日本大震災のさらに16年前に大規模地震があったことは覚えていますか？

27年前の平成7年1月17日、「阪神・淡路大震災」が発生し、被害は兵庫県を中心に2府14県に及び、死者6,434人、行方不明者3人、負傷者43,792人と甚大なものになりました。

多くの尊い命を一瞬にして奪った大地震は、同時に高速道路の崩落や道路の地割れ、陥没など交通機関にも大きな打撃を与え、さらには上下水道、電気、ガスなどのライフラインも寸断、多数の要救助事案が集中的に発生しました。



こうしたなか、警察や消防などの公的機関による救助活動には限界があり、家屋の下敷きになった人々の多くを救出したのは、家族や近所の人たちと言われていました。

これをきっかけに、「公助」だけでなく「自助」や「共助」の必要性を再認識する機会となり、これ以降、災害時におけるボランティア活動への関心が高まりました。

今できることから始めましょう！

「防災とボランティア週間」にあわせて、まずは、身近でできる防災からはじめませんか？



- 家具は倒れるもの →→→ 転倒防止対策
- ライフラインが止まる → 非常用バッグを常備
- 家族の安否確認 →→→→ 非常用伝言ダイヤル(171)

